



市民病院の未来

島田市民病院（以下、市民病院）には、全市民の皆さんを対象とする二次医療施設として、来院者および医療関係者のアプローチの容易さ、そして、来院時の利便性が求められています。一方、東日本大震災以降、市民の最大関心事の一つが「安全・安心」となっています。市では、市民の皆さんの命を守るため、市民病院の建て替えについて、最善の方法を検討しています。

（問）政策推進課 ☎36・7191

Q なぜ市民病院を建て替える必要があるの？

A 開院から33年が経過している市民病院の建物は、老朽化が進んでいます。静岡県が定める東海地震に対する耐震性においては、倒壊する危険性は低いが、かなりの被害を受けることが想定される建物、つまり「耐震性がやや劣る建物」とされています。市民病院は「災害拠点病院」として位置づけられていますが、現在の建物では、その機能の維持が困難な状況です。このため、市民の命を守る施設としての体制・設備・機能を備えた新病院の建設が必要となります。

Q 現地で建て替えるとしたら、場所はどこ？

A 現地で建て替えるとした場合に必要な用地の範囲は、次ページ図面のBまたはCとなります。いずれの範囲も、現病院敷地に加えて、新たな用地取得が必要になることが分か

Q 現病院の敷地の地盤は地震に対して大丈夫？

A 現病院敷地内の地盤は、建設当時などに地盤を掘削して行われたボーリング調査（33カ所のボーリング調査を実施）の結果によると、「軟弱地盤帯」（沼地）であると報告されています。

基礎を打ち込む岩盤までの深さは、約12～38m。敷地の東側に向かって基礎岩盤が深くなる傾向にあり、現病院東側の駐車場は、沼地がさらに深くなること予測されます。

また、東海地震（マグニチュード8程度）を想定した「第3次地震被害想定結果」（平成13年5月静岡県公表）において、市中心部の推定震度は「6弱」とされているのに対し、現病院敷地周辺の震度は「6弱～6強」とされています。

一方、県による液化化危険度の想定では、現在の病院本体部分の危険度が「なし」と判定されているものの、現病院東側の駐車場（B）から北側（C）

にかけては、危険度が「小～大」と判定されており、地震発生時の液化化が懸念されます。

Q 大規模災害が発生した場合の病院機能は？

A 地震の問題や液化化の懸念を踏まえると、病院へのアクセス道路の地盤もまた、敷地同様に良好ではないことが予想され、震災時に交通が分断される恐れがあります。

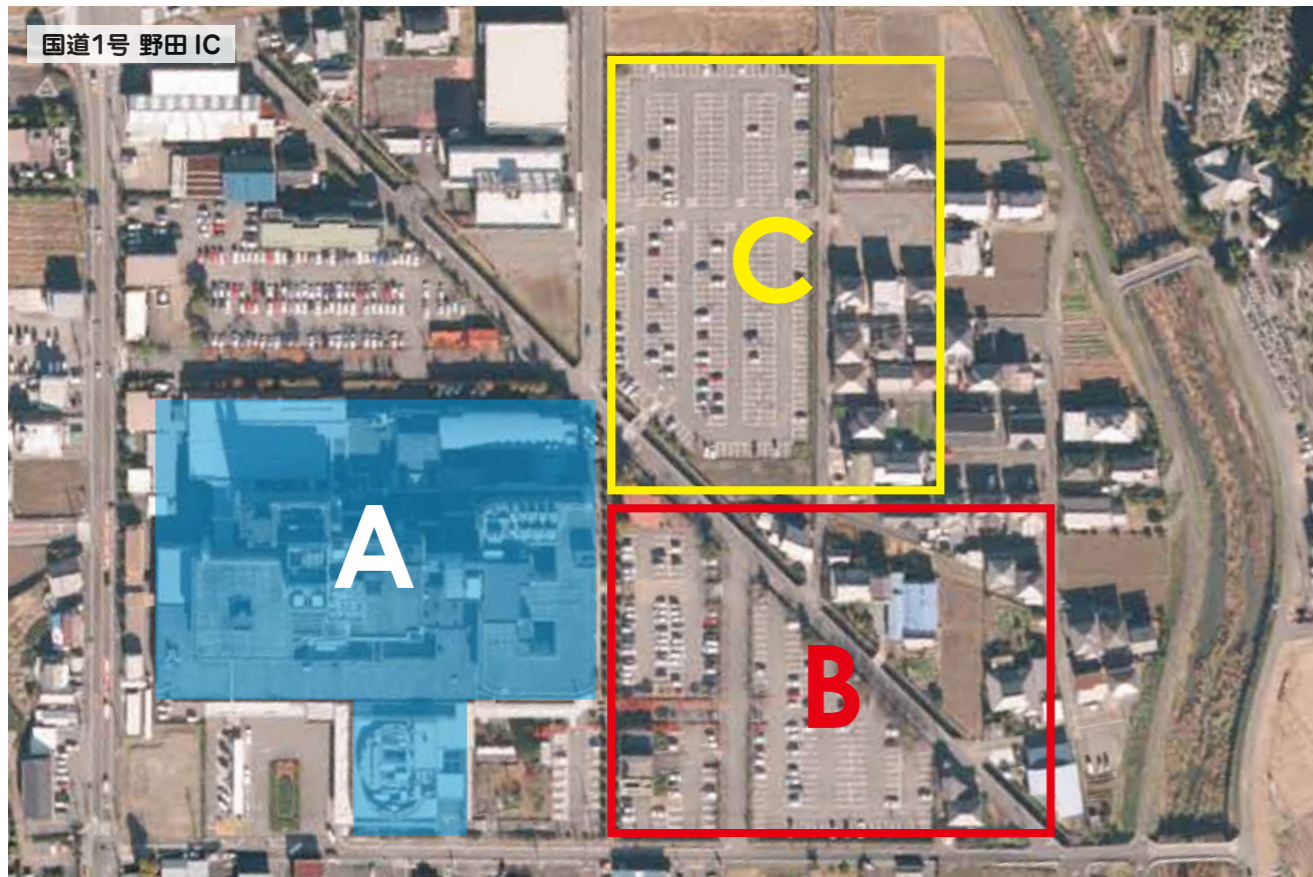
また、水道・ガス・電気などのラインが分断された場合、復旧までに時間を要し、けが人を運ぶことが不可能になる恐れがあります。

Q 新病院の形状や規模と工事中の周辺環境は？

A 今回の基本構想では、地域医療や利用率などの現状を踏まえ、現在の市民病院の病床数を維持した上での移転を想定しています。

現病院敷地内で建て替えた場合、敷地面積の制約により、建物が△型のような複雑な形状になってしまいます。このため、建物は現在と比較して高層化する事になり、周辺住宅地への日影規制を受けることになります。

また、**現病院敷地内で建て替えた場合**、敷地面積の制約から、段階的な建て替えを強いられることとなり、工事期間の長期化が予想されます。これに伴い、工事期間中の来院者駐車場は約



A 現在の市民病院の敷地 B 現地建て替え場所として考えられる範囲 C 現地建て替え場所として考えられる範囲

Q なぜ病院にヘリポートが必要なの？

100台分しか確保できない上、騒音の発生など、周辺環境と入院患者の療養環境の悪化が懸念されます。

A 市民病院は「災害拠点病院」の指定を受けています。災害時には、ヘリコプターによる傷病者や医療物資などのピストン輸送を行い、住民の命を救う重要な役割を担っています。また、救急医療用ヘリコプター（ドクターヘリ）の受入施設の指定を受けており、一刻を争う重篤患者の救命という重要な役割も担っています。

しかし、現病院敷地内にはヘリポートが常設されておらず、大井川河川敷緑地公園やローズアリーナ多目的広場などを代用しているのが現状です。新病院を、災害拠点病院としての機能を十分に備えた施設とするためには、ヘリポートを敷地内に併設することが求められています。

そのため、現病院敷地内（職員駐車場）への離着陸に関する説明会を、平成21年に地元町内会や近隣住民の皆さんに対して6回開催しましたが、一部住民の強い反対があり、断念しました。

以上のようなことから、新病院は新たな場所への移転を計画しています。今後、市民病院の建て替えについて、最善の方法を検討していきます。